

WS2-1

子どもの心のサインを読みとる②
…ロバートソンフィルムを教材にして…

リーダー
松原 徹(城東こどもクリニック)
サブリーダー
澤田 敬(カンガルーの会)
新津直樹(新津小児科)
藤田一郎(福岡女学院大学)

ロバートソンフィルムとは養育理論を確立したポウルビヤの弟子であるロバートソン夫妻によって1950年代にイギリスで撮影された子どもの発達心理行動の研究のためのフィルムです。そこには2歳前後の子どもの姿が母親と分離され、「自分に向かっているのか分らない」「戸惑いと不安が究明に記録されています。

昨年このWSでは衝撃的な「JOHN」を視聴しました。今回は「LUCY」を視聴します。Lucyは21ヶ月の女児。Johnと違って里親の下で手厚いケアを受けて過ごしています。Lucyは母親と分離されている間、どんな様子を見せましょうか。また母親と再会したときに彼女が見せる表情は?

前回同様、まず最初にフィルムを視聴し、その後幾つかのグループに分かれ、子どもの仕草や表情から参加者それぞれが読み取った子どもの心の心理状態や感じたことを話し合います。そして愛着にまつわる病理を理解し、日常診療や保育、育児支援に大切な心のサインを一緒に再確認しましょう。

WSのタイプ	研修型	対象
定員	40名	制限なし
1施設からの定員	各職種2名	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS2-3

定期予防接種委託料金の算定根拠を検討する

リーダー
藤岡雅司(ふじお小児科)
サブリーダー
片岡 正(たかおか小児科クリニック)

定期接種は市区町村が実施主体であり、主に地域の医師会と委託契約を締結して事業を運営していますが、委託料に関する内容は自治体によってさまざまです。その主な理由として、委託料金の算定根拠が明確になっていないことが考えられます。国は厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会において「適切な問診料等の水準のあり方」を検討することになっていますが、実際は「初診料」「乳幼児加算」等の保険診療点数が適用されています。しかし、予防接種にかかる多様な医療行為が、疾病を対象とする保険医療と異なることは言うまでもなく、その産産を明確にせず安易に現状の契約を続けることは適切ではありません。そこで、本ワークショップでは、厚生科学審議会における議論に資することを目的として、予防接種にかかる医療行為を詳細に分析し、定期接種委託料の算定根拠を確立したいと考えています。定期接種事業に主体的に関わっている医師の参加を希望します。

WSのタイプ	問題解決型	対象
定員	30名	医師
1施設からの定員	1名	
当日参加	不可	
参加費	無料	

WS2-2

発達障害児への服薬支援

リーダー
松本康弘(ワタナベ薬局上高永店)
サブリーダー
木下博子(大分こども病院医療技術部薬局)
福岡美鈴(鈴木小児科医院)
金原洋治(かねはら小児科)

発達障害がある児は医療現場において様々なトラブルを起こす。特に、薬物治療を行う際、服薬を拒否したり、抵抗することが多々みられる。一度、服薬拒否すると、その後も薬を服用できないことがあり、保護者の悩みの種となっている。この様な場合、親だけに任せず、小児医療に関与する医療関係者が協力して服薬支援が必要がある。

しかし、発達障害児の服薬支援の疾患によっても、またその程度によって変える必要がある。また、服薬支援手本となる成書は少なく、各医療機関は試行錯誤で対応している。今回、様々な現場での失敗事例、成功事例をそれぞれの特徴から集めて、それぞれのケースでどの様に対応していけばよいか話し合っていきたいと思う。また、発達障害を専門とする医師に同席してもらい、発達障害児への一般的な対応としてどうなのかを評価していただく予定である。

WSのタイプ	問題解決型	対象
定員	30名	看護師・看護助手・ 保育士・薬剤師
1施設からの定員	各職種1名	
当日参加	不可	
参加費	無料	

WS2-4

子どもの貧困に気づき支援するためにpart2

リーダー
和田 浩(礎和会病院小児科)
サブリーダー
佐藤洋一(生協こども診療所)
山口英里(千歳橋病院小児科)
酒井 慧(長野県立こども病院)

子どもの貧困問題への関心が高まっていますが、「自分のところの患者さんにそういう人がいるかどうか分からない」「貧困を抱えた親子に対して何をしたらいいかわからない」といった方も多いと思います。このWSは「貧困問題初心者」のために、入門レクチャー、全体での事例検討、グループディスカッションを行い、「どうしたら貧困が見えるようになるか」「医療者にどんな援助ができるか」を考え、その糸口がつかめるようにしたいと思っています。

WSのタイプ	研修型	対象
定員	40名	制限なし
1施設からの定員	制限なし	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS2-5

WISCを支援に繋げよう

リーダー
高田 修(たかだこども医院)
サブリーダー
佐久間秀人(佐久間内科小児科医院)
多田香苗(愛育こどもクリニック)

学校や家庭などで困難を抱えている子どもの支援には、保護者の理解と本人の自己決定を元に、医療や教育、福祉などの多職種が連携し協働することが必要です。その際WISC検査は、良さの観点から子どもの特性を共通理解し、その子の可能性を探るのに優れたツールとなります。私たちは平成23年から5回のシリーズでワークショップ「WISCを体験しよう」を開催しました。WISC検査の構造を遊して子どもの認知機能を理解することを目標とし、そのプロダクトとして「WISCを体験しよう」ワークショップが目指すもの」を学会誌「外来小児科」に掲載しました。

今回は(想定した)症例を提示し、その情報をもとにWISC検査結果と併せて子どもの困難さを理解し、良さの観点から支援プログラムを実際につくるロールプレイを計画しています。参加条件は「WISCを体験しよう」ワークショップが「外来小児科 第19巻 第1号(2016)」をお読みいただくこととします。このワークショップで得られる連携・協働の体験は、すべてで地域での子ども支援に役立つものと信じます。ご参加をお待ちいたします。

WSのタイプ	研修型	対象
定員	40名	制限なし
1施設からの定員	1名	
当日参加	不可	
参加費	2,000円	

WS2-7

離乳食を科学的に語る

リーダー
阿田清春(おかだ小児科医院)
サブリーダー
土田晋也(つちだ小児科)、西村 龍夫(にしむら小児科)
今西康次(南部徳洲会病院小児科)

離乳食指導は厚生省が策定している離乳食ガイドに基づき、日本全国で行われている。

WHOが提唱する補充食とはいささか趣を異にする。例えば、母乳で足りなくならない食料を揃える必要があるにも関わらず、その必要性に対する記載が殆ど無く、鉄分の多い食材について詳細に書かれていない。また、母乳の成分はカローリー比で半分が脂肪であるにもかかわらず、脂肪の少ない食事を推奨している。「アレルギーの心配のないおから始める」という記述が、母親の不安を高め、卵等の摂取を遅らせ、食物アレルギーをより起こりやすくさせているのではないかと意見もある。あるいは、乳児期はアメリカや欧州で広く行われている離乳食指導に科学的根拠があるのか、WHOの提唱する補充食とどこが違うのか、さらに重篤な食物アレルギーを起こす子どもの成長に必要かつ不可欠な離乳食はどのようなものであるか問題提起したい。

事前に以下の資料をダウンロードし目を通しておいてください。
「厚生労働省の離乳食」(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/03/dl/sb914-17c.pdf>)
「WHOの離乳食」(http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/56838/2/WFD_NHD_001_jpn.pdf)

WSのタイプ	問題解決型	対象
定員	30名	制限なし
1施設からの定員	3名	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS2-6

保育士はもっと積極的に保護者をサポートしよう!Ⅲ
～多職種による保護者支援の実践に向けて～

リーダー
宇野久美子(大分こども病院)
サブリーダー
吉井友美(大分こども病院)
永野和子(杉野クリニック)

前回のWSでは、育児の悩みをもつ保護者と、子どもに対して無関心な様子の保護者にどのように関わり、声掛けをしていくのかについて、その支援方法を議論した。その結果、保育士は子どもと保護者の互いの気持ちを理解し、代弁者となって仲介役になることが、支援方法として得られた。保護者の育児に対する悩みは様々で、中には病気をものに対して大きな不安を抱えていることがある。保育士の専門性だけでなく多職種と協働することで、更に一人一人に寄り添った支援ができると考えられる。そこで今回は、互いの専門性を活かしながら保護者支援をしていく方法や対応について実際の事例を用いて検討する。また、他職種の専門性に気づき、それを活かした連携をするにはどうすればいいのかわかる。到達目標は、各施設において多職種で保護者一人ひとりのニーズを満たすために実行可能な支援方法を見つけることである。

*同一施設から2名まで参加可能です。但し、「保育士と保育士」「看護師と看護師」のように同一職種ではなく、「保育士と受付」「看護師と保育士」のように、別の職種が1名ずつ参加されることを希望します。

WSのタイプ	問題解決型	対象
定員	30名	制限なし
1施設からの定員	2名(別職種)まで	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS2-8

自分らしく生きるために
「アドラー心理学」を学んでみませんか?

リーダー
吉田 均(よしだ小児科クリニック)
サブリーダー
武藤一夢(むとう小児科医院)

充実した人生を歩んでいらっしゃいますか?もしかして「言いたいことが言えない」「他人の目が気になる」「どうせ私なんて劣等感のかたまり…こんな暗い気持ちになつたことはありませんか?」「嫌われたくないので、いい人演じている」ということありませんか?同僚や友人、夫婦、親子など人間関係はうまくいっていますか?あるいは、お子さんの無気力や不登校、引きこもりなどで悩んでいませんか?そして、人生の意味について考えたことがありますか?

アルフレッド・アドラー(1870~1937年)は「人は愛される」「劣等感なんて主観的な思い込み」「トラウマなど存在しない」「承認欲求を否定する」「叱ってはいけない、ほめてもいい」「子どもを尊敬せよ」等々、常識を覆すような哲学や教育論を唱えています。WSではベストセラー「嫌われる勇気」の著者岸見一郎さんをお迎えし、私たちを苦しめる劣等感への向き合い方や複雑な対人関係のしからみから解放される方法を学び、人生や幸福の考え方、そして悩める子どもの接し方を根本から見直してみたいと思います。なお、WSまでアドラー心理学の基礎をご理解いただけるようメールで参考資料を送付し事前勉強を行います。

WS2-9

「えっ、薬を飲まない!?さあ困った!!どんなアドバイスをしよう?」
~ 事例からみんなで考え直してみよう! ~

リーダー
藤原 米二 (あおば薬局)
サブリーダー
三浦 哲也 (アップル薬局)
仙波 義和 (信栄調剤薬局)
上野 裕広 (すずらん調剤薬局)

「くすみが難いみたいで、全く飲んでくれないです...何か良い方法はありませんか?」小児科外来においては、よく遭遇する質問ですが皆さんは困っていませんか?薬と混ぜる食品の紹介だけでは解決に至らないことも多いため、真の解決に向けてどのように保護者から情報を収集し、どのようにアセスメントを行い、どのようなアドバイスを提供すればよいのか、今回は話し合いだけではなくロールプレイングを通じて考えてみたい。

事前調査では、服薬を拒んだ患児へのアドバイスで解決できなかった症例だけではなく、参加者が保護者へのアドバイスに窮した事例を集めたい。そこから模擬症例を作成し、解決に向けて、まずは小グループでの話し合いを行い、ロールプレイングにて発表していただく。ロールプレイングによって自らが新たな視点から気づくことや、他グループの参加者にも気づきを与えられることを目指したWSを行いたい。

WSのタイプ	問題解決型	対象
定員	40名	制限なし
1施設からの定員	2名	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS2-11

明日からもっとよくなる小児科での禁煙支援

リーダー
牟田 広実 (いづつかども診療所)
サブリーダー
野田 隆 (のだ小児科医院)

本ワークショップはタバコ問題検討会が主催し、2008年から継続して開催しています。小児科外来で効果的な禁煙支援の声かけができるようになることを目標とし、禁煙支援の基礎知識のレクチャーと模擬患者さんに対する禁煙支援のシミュレーションで構成しています。まず、禁煙支援の経験豊かな講師陣による禁煙支援の基礎知識のレクチャーから始まります。続いて行われるシミュレーションでは、小児科での禁煙支援よりリアルに体験していただくよう、元喫煙者で現在は禁煙支援を継続的に行っている方々に模擬患者さんをお願いしています。また、禁煙支援の経験豊かなサブリーダーがファシリテーターとして、効果的な学習を支援します。参加していただいた方からは、「完成度の高いワークで、喫煙者の気持ちを理解しながら禁煙を助めるノウハウを確実に身につけることができた。」などの嬉しい声を頂いています。禁煙支援は初めてという方から、もっとブラッシュアップしたいという方まで、幅広い参加をお待ちしております。

WSのタイプ	研修型	対象
定員	30名	制限なし
1施設からの定員	制限なし	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS2-10

質的研究方法をみんなで検討しよう!
~ これからはじめる人も、すでに始めた人も ~

リーダー
齊藤 匡 (多古中央病院)
サブリーダー
清水 理恵 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)
西垣 佳織 (東京医療保健大学医療保健学部)
黒木 春都 (外務こどもクリニック)

質的研究方法検討会が主催するWSです。質的研究に関する書籍や文献は増えてきましたが、いざ自分で研究を始めようとする、データの収集や分析など一人では困難なことが多くてなかなか前に進みません。昨年のWSでは「現場の声を形にしよう」というテーマで、日常で感じている疑問を持ち寄りリサーチクエストの形に、研究計画を立てる作業を行いました。今年のWSでは、初参加の方は昨年と同様、研究計画を立てることを到達目標とします。昨年参加した方や、すでに研究計画(構想でも可)をお持ちの方、あるいは実際に研究を開始してデータをお持ちの方は、さらに研究を進めるために、具体的なデータ収集方法を決定したり、実際のデータを持参して分析方法を学ぶことを到達目標とします。現在、大学で小児看護の教員をしている質的研究の経験豊富なファシリテーターを交えて、楽しくディスカッションする場にしたいと思えます。最終的な目標は、一人でも多くの方が学会発表や論文完成にまでたどり着くことで、WS終了後も研究に関する相談ができるようなネットワーク作りを目指します。

WSのタイプ	研修型	対象
定員	20名	制限なし
1施設からの定員	制限なし	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	500円	

WS2-12

「乳幼児の本当の遊びとは」一緒に考えましょう!

リーダー
峰谷 明子 (峰谷小児科)
サブリーダー
三田 智子 (川野辺小児科)
長谷加代子 (まつだこどもクリニック)

遊びは子どもの栄養です。「子どもにとっての遊び」を多職種で考えて行きたいと思えます。

それぞれ年齢や年齢で獲得する能力と遊びの関わりを考え、遊びの持つ意義を考えて行きます。近年、我が子と遊ぶことが苦手なお母さんや遊びを奨励させてあげられない保育士も見られます。そのような保護者や保育士に、遊びを紹介してどのような意味を持っているかをレクチャー・支援できるスキルを共有獲得することを目的とします。例えば「だるまさんがころんだ」はまさに「体を制止する」という癖での作業療法です。「おくらまんじゅう」は自分の力の入れ具合を加減するというボディコントロールの作業療法に他なりません。さらに体と体が触れ合う、タッチケアであり、体の快・不快を体感する性教育に繋がって行くこととなります。

多職種が集まり、遊びの紹介を合い、遊びの意味を考えて行きたいと思えます。「乳幼児の遊び」の深い意味を認識し合い、子育て支援ができるために、ひとつの知識と技量になることを目標に、一緒に楽しく学びましょう!

参加費に関係なく、メディカルスタッフの方々中心に多くのご参加をお願いしたいと考えております。

WSのタイプ	研修型	対象
定員	40名	制限なし
1施設からの定員	制限なし	
当日参加	可	
参加費	無料	

WS2-13

予防接種アプリを評価する

リーダー
岡藤 隆夫 (岡藤小児科医院)
サブリーダー
多田 真里奈 (永井小児科医院)
船木 祐花 (岡藤小児科医院)

スマートフォンの普及に伴い、予防接種についても多くのアプリが利用できるようになりました。しかし、その利便性や情報の正確性などはアプリによって差があります。そこで今回、保護者へ事前アンケートを行うとともに、実際に使用してアプリの有用性を評価します。そして日常診療においてアプリを用いることで、受付事務の負担や過誤接種の軽減に役立つかを検討します。

WSのタイプ	問題解決型	対象
定員	40名	医師以外
1施設からの定員	2名	
当日参加	可	
参加費	無料	

